

NPO法人と地域住民が連携した山づくり



NPO 法人と地元愛林会により間伐計画の立案をしています



NPO の方々が豊かな山づくりについて話し合いをしています



集落懇談会において森林整備について検討しています

佐久市の大沢新田では、地域住民と特定非営利活動法人（NPO 法人）「信州そまびとクラブ」が連携し、熱心に地域の森林整備を進めています。

森林の荒廃は山村の生活環境に重大な影響を及ぼします。しかし森林整備を推進するには多くの課題があります。個々の所有規模が小さく分散し、離村により所有者が不在の場合はその情報を集め、森林整備を行う承諾を得なければなりません。NPO 法人といえども最大の壁です。その森林所有者との調整役として力強い味方になってくれているのが、地元代表の「大沢新田愛林会」です。一方、高齢化の中で後継者問題に悩む山村においては、若き精鋭のNPO 法人の活動は、山村の活性化と将来の地域の森林管理を託すことにもつながり、お互いが両輪となって取り組んでいます。

大沢新田に隣接する佐久市大沢財産区有林で、この二月に県内外から約百人が参加した「森林の回廊」が三日間にわたり開催されました。信州そまびとクラブの皆さんもスタッフとして大活躍でしたが、参加された各地のNPO 活動をされている方々は林業と自然が調和する豊かな山づくりについて意見を話し合っていました。

このような地道な取り組みと森林に関わる多くの人の様々なネットワークと想いは未来の豊かな森林を立派に築いていくと期待されます。